

IAUの新しい制度

岡村 定 矩

〈日本学術会議 IAU 分科会委員長 法政大学理工学部創生科学科
〒184-8584 東京都小金井市梶野町 3-7-2〉
e-mail: sadanori.okamura@hosei.ac.jp



IAU (International Astronomical Union: 国際天文学連合) は天文学の研究環境の変化に対応して近年さまざまな改革を進めています。この記事では2018年8月のウィーン総会で作られる予定の新たな会員種別 Junior Member と Honorary Member, および2016年に作られた IAU PhD Prize について説明します。

IAU は天文学の研究環境の変化に対応して近年さまざまな改革を進めています。このたび2018年8月のウィーン総会で新たな会員種別を作る規約改定が行われる見込みです。本号および tennet で周知されている IAU の新会員募集に関わりがあるので、この件を、若手向けの新たな報賞制度とともに説明します*1。

1. Junior Member と Honorary Member

IAU は National Member (加盟国) と Individual Member (個人会員) という2種類の会員で構成されています。職業天文学者を代表する組織 (Adhering Organization) が存在して IAU 対応事務を行い、分担金を支払う国 (や地域) が National Member です。わが国では日本学術会議 (IAU 分科会) がこれに当たっています。2017年現在の National Member は79です。Individual Member は天文学分野の職業研究者 (professional scientist) で、National Member の推薦に基づいて IAU の Executive Committee (執行委員会) で承認された者です。2017年現在の Individual Member は12,609

人、日本は732人でアメリカ、フランスに次いで加盟国中第3位です。このたび、これに加えて Junior Member (若手会員、以下 JM と略記) と Honorary Member (名誉会員) ができる予定です。

JM は学位をとった直後からメンバーとなれる暫定的な資格です。JM は3年以内に通常の個人メンバーとして推薦されると想定される人を対象にしています。JM を作る主な目的は、IAU の活動に関わる若い研究者、特に女性研究者を増やしたいということです (図1参照)、国によってさまざまな背景があり、その国の天文学研究を発展させるのにこのような制度がとても有効な場合もあるようです。

JM に関する IAU の規定のポイントは以下の諸点です。

- 6年間を超えない暫定的な資格で、通常は承認されてから3年間限り。1回に限り3年間の更新ができる。
- 学位を取得してかつ天文分野の研究者を目指している。
- 職業天文学者になる能力を評価する少なくとも2名 (うち1名は学位論文の指導教員) のレ

*1 本稿にある IAU 関連の英語名称の日本語訳は確定したものではないので、初出時のみ説明のためにつけておきます。

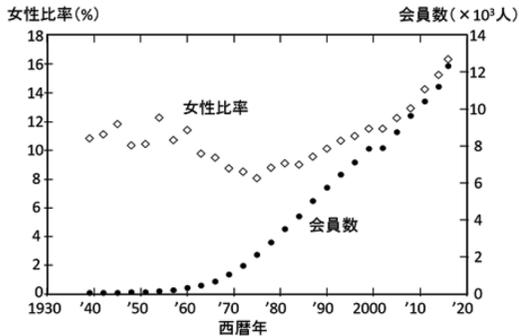


図1 IAU個人会員数と女性会員比率の推移。1960年代から2000年代までは、個人会員が増えても女性会員比率はほぼ横ばいであったが、2010年頃から会員数の増加に伴って女性会員比率も増えている。

フェリーの支持がある。

- National Member の推薦に基づいて Executive Committee が毎年承認する。
- 所属したい Division (部会) を少なくとも一つ指定する
- Commission (委員会) や Working Group (ワーキンググループ) に参加できるが役職にはなれない。ただし、JM を対象に作られるものは例外。

IAU 分科会ではこれまで Individual Member への推薦基準を「天文学・宇宙物理学または関連分野において博士号を取得し、かつその後2-3年以上研究者としての活動歴がある者」としてきました。今回JMが新たにできるためにその推薦基準をIAU分科会で議論しました。若手を取り巻く現在の日本の研究環境を見ると、「資格があればできるだけ多数のJMを推薦する」ことには否定的な意見が多数でしたが、JMとしてIAUの活動に積極的に参加する意志のある人は是非推薦すべきであるとの意見もありました。そこで、上記のIAUの規定との整合性も踏まえて、申請者がJMとしてIAUの活動にどのような形で参加を希望

するかを明らかにした指導教員の推薦書と、もう1名のIAU会員の推薦がある人に限って推薦することにしました。

一方、Honorary Memberは、その国の天文学の発展に多大の貢献があった職業天文学者ではない人です。IAU組織での投票権はなく、またどれかのDivisionに所属する必要もありません。National Memberは、3年ごとに1名のHonorary Memberを推薦できます。天文学の発展のために重要な政策決定をした人や多額の寄付者を想定しています。

2. IAU PhD Prize

2016年にIAUの新しい賞である「IAU PhD Prize (IAU博士論文賞)」が創設されました。これはIAUの各Divisionがそれぞれの関係分野で過去1年間(前年の12月16日から当該年の12月15日まで)に最も優れた博士論文であると判定したものに贈られる賞です。希望者は必要書類を添えてウェブベースで自己申請します*2。締め切りは毎年12月15日です。

この賞の具体的中身は各Divisionが決めますが、標準として含まれるのは、直近のIAU総会への出席旅費(航空運賃と宿泊費)で、そのIAU総会で授与式があります。総会時のExecutive Committee Meetingでのプレゼンやディナー、Division Meetingでのプレゼン、Plenary SessionあるいはSpecial Sessionでのプレゼンなども考えられているようです。

若手研究者のキャリアアップ、特に国際的な活躍につながる賞で、関連するサイトでもいろいろ反響を呼んでいると聞いています。昨年、日本人では、高棹真介氏(名古屋大学/京都大学)が受賞されました。今年の締め切りにはまだ間に合いますので、対象期間に学位論文を提出された人は積極的に応募してください。

*2 <https://www.iau.org/news/announcements/detail/ann16044/>

IAUの近年の制度改革はこのほかにもたくさんあります。2012年の北京総会ではDivisionの再編や電子投票制度の導入などが行われました。2015年のホノルル総会ではCommissionとWorking Groupが再構築されました。また、2011年には「発展のための天文学オフィス (Office of Astronomy for Development; OAD)」がケープタウンの南アフリカ天文台に、2012年には「天文学アウトリーチのためのオフィス (Office for Astronomy Outreach; OAO)」が東京の国立天文台に、2015年には「若手天文学者のためのオフィス (Office for Young Astronomers; OYA)」が、オスロのノルウェー学士院にそれぞれ設置されました。さらに2017年からIAUは、国際科学会議 (International Council for Science; ICSU) の資金で実施されているプロジェクト「数学および自然科学におけるジェンダーギャップへの世界的アプローチ: どのようにして定量化しどのようにしてギャップを埋めるか」^{*3}にも参加しています。これらの制度改革と諸活動の紹介は別の機会に譲る

こととします。

なお、IAUについてはIAUのホームページ^{*4}のほか、天文月報の3回連続の特集記事「IAUとの関わりを考える」(2010年11月号, 12月号, 2011年1月号)を参考にしてください。この特集記事は日本天文学会ホームページ^{*5}の「IAU関連のお知らせ」にも掲載しています。

New Systems of IAU

Sadanori OKAMURA

*Department of Advanced Sciences, Faculty of
Science and Engineering, Hosei University,
3-7-2 Kajino-cho, Koganei, Tokyo 184-8584,
Japan (National Representative for the IAU)*

Abstract: Three new systems of the IAU, Junior Member, Honorary Member, and IAU PhD Prize are introduced.

^{*3} <https://icsugendergapinscience.org/>

^{*4} <https://www.iau.org/>

^{*5} <http://www.asj.or.jp/>